

「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の進捗状況について

(1) 計画値の達成状況

計画では、令和13年度を目標年次として達成すべき5つの具体的な数値目標を掲げています。

令和2年度は、5つの数値目標のうち、総排出量・焼却処理量・最終処分量は計画値を達成しましたが、再生利用率・温室効果ガス排出量は計画値に達しませんでした。

表1：計画値と実績値の比較（総排出量・焼却処理量・再生利用率・最終処分量の令和2年度実績値については災害ごみ量を除く）

	令和2年度			令和13年度 （目標年度）
	計画値	実績値	達成状況	
総排出量 ¹ (t)	368,788	334,900	○	354,000
焼却処理量 (t)	241,861	235,156	○	235,000
再生利用率 ² (%)	35.4	32.1	×	38.0
最終処分量 ³ (t)	22,303	17,397	○	13,000
温室効果ガス排出量 (t)	81,517	82,525	×	78,000

¹ 総排出量：以下の①、②、③の合計

①家庭系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、有害ごみ、資源物（びん、缶、ペットボトル、古紙、布類、生ごみ、剪定枝等）、粗大ごみ）

②事業系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、事業系資源物（びん、缶、金属等、古紙・布類、厨芥類など）

③集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収

² 再生利用率：ごみの総排出量に対する再生利用量の割合（再生利用率＝再生利用量／総排出量×100）

※再生利用量：家庭系資源物、集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収、事業系資源物、不燃ごみ・粗大ごみの破碎後資源化量、有害ごみ・焼却灰等再資源化量の合計

³ 最終処分量：埋立焼却灰量と直接埋立量（破碎残さ量を含む）の合計

ア 総排出量

令和2年度の総排出量は 334,900t となり、前年度と比べて 10,222t (3.0%) 減少し、計画値を達成しました。

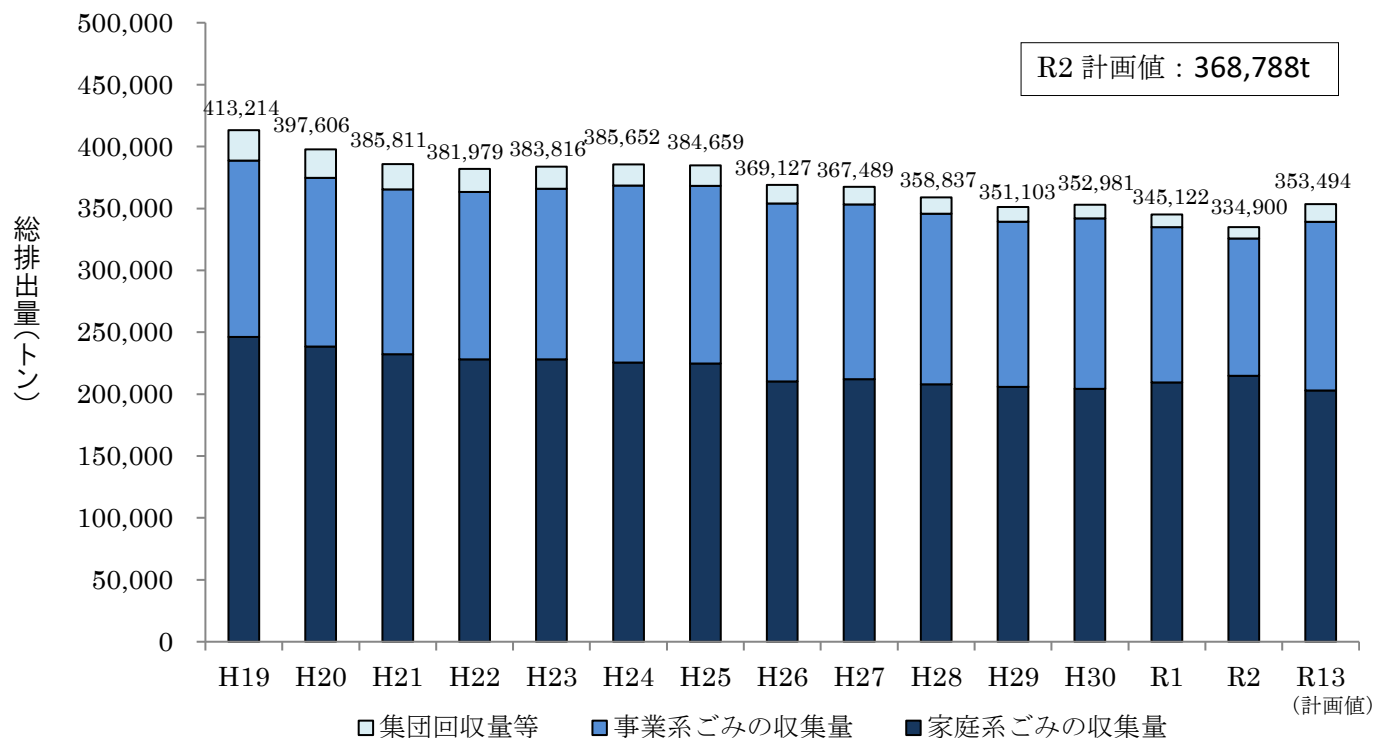


図1 ごみの総排出量の推移

【内訳】

① 家庭系ごみ

計画：176,160 トン→実績：178,673 トン (+ 2,513 トン)

② 事業系ごみ

計画：74,248 トン→実績：62,424 トン (▲11,824 トン)

③ 家庭系資源物

計画：50,597 トン→実績：45,318 トン (▲ 5,279 トン)

④ 事業系資源物

計画：67,782 トン→実績：48,485 トン (▲19,297 トン)

【主な要因】

①家庭系可燃ごみ収集量の減少 (▲1,114 トン)

①家庭系不燃ごみ収集量の増加 (+1,604 トン)

①粗大ごみ収集量の増加 (+1,963 トン)

②事業系可燃ごみ収集量の減少 (▲11,830 トン)

③家庭系古紙・布類の集団回収量の減少 (▲5,111 トン)

④事業系古紙回収量の減少 (およそ▲18,000 トン)

イ 焼却処理量

令和2年度の焼却処理量は235,156tとなり、前年度と比べて7,809t（3.2%）減少し、計画値を達成しました。

このうち、家庭から排出される焼却ごみの量は172,755t（前年度比3,093t（1.8%）増）に、事業所から出される焼却ごみの量62,401t（前年度比10,902t（14.9%）減）となりました。

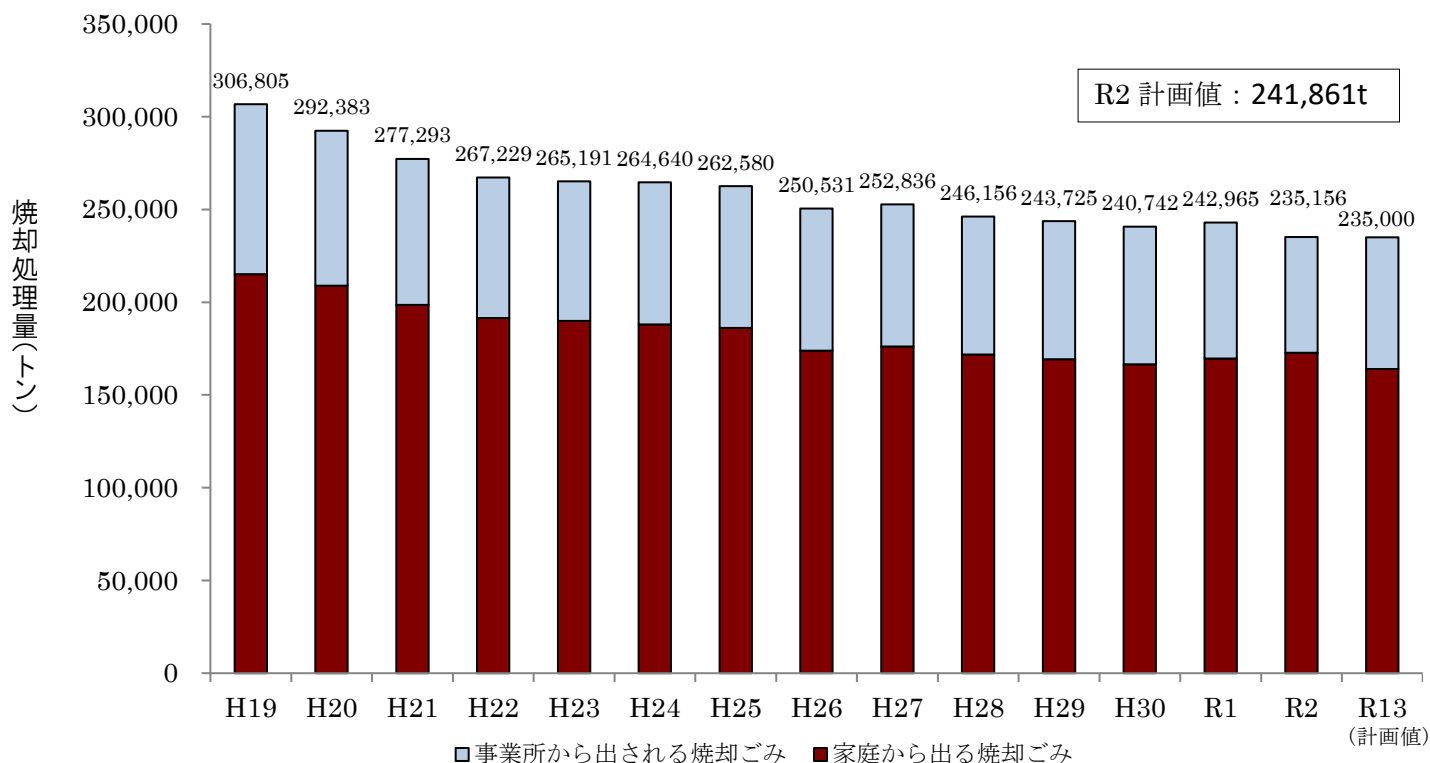


図2 焼却ごみの量の推移

【内訳】

① 家庭から排出される焼却ごみ量

計画：167,630トン→実績：172,755トン（+5,125トン）

② 事業所から排出される焼却ごみ量

計画：74,231トン→実績：62,401トン（▲11,830トン）

【主な要因】

- ①新型コロナウイルス感染症の流行に伴う生活様式の変容（外出自粛・在宅勤務等による家庭系ごみ量の増加）
- ②新型コロナウイルス感染症の流行に伴う事業活動の縮小（店舗・施設等の営業縮小など）

ウ 再生利用率

令和２年度の資源物の収集量は 84,224t でした。

このうち、家庭から出された資源物（集団回収等を除く）は 35,739t となり、前年度と比べて 2,137t（6.4%）増加しました。

また、事業所から出された資源物は 48,485t となり、前年度と比べて 3,627t(7.0%) 減少しました。

集団回収等や焼却灰の再資源化等を含めた最終的な再生利用量は 107,436t で、このことから再生利用率は 32.1%となり、前年度と比べて 0.5 ポイント増加しましたが、計画値の 35.4%に達しませんでした。

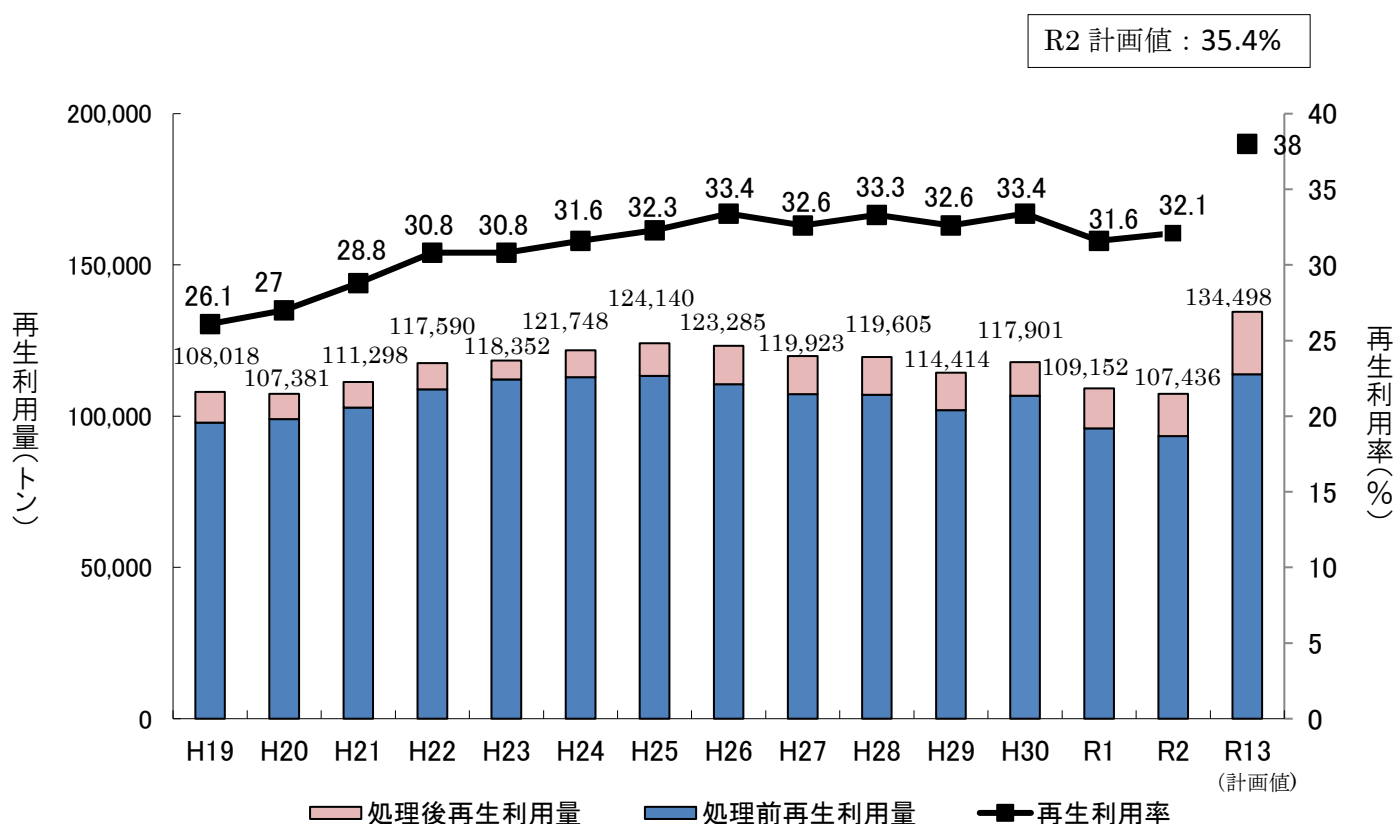


図３ 再生利用量、再生利用率の推移

【内訳】

①家庭系資源物再資源化量（集団回収等を除く）

計画：36,299 トン→実績：35,739 トン（▲560 トン）

②事業系資源物再資源化量

計画：67,782 トン→実績：48,485 トン（▲19,297 トン）

【主な要因】

①家庭系古紙・布類の収集量の減少（▲918 トン）

①家庭系びん・缶・ペットボトルの収集量の減少（▲343 トン）

①家庭系剪定枝等の収集量の増加（＋701 トン）

②事業系古紙の再資源化量の減少（およそ▲18,000 トン）

エ 最終処分量

令和2年度の最終処分量は17,397tとなり、前年度と比べて999t(5.4%)減少し、計画値を達成しました。

R2 計画値：22,303t

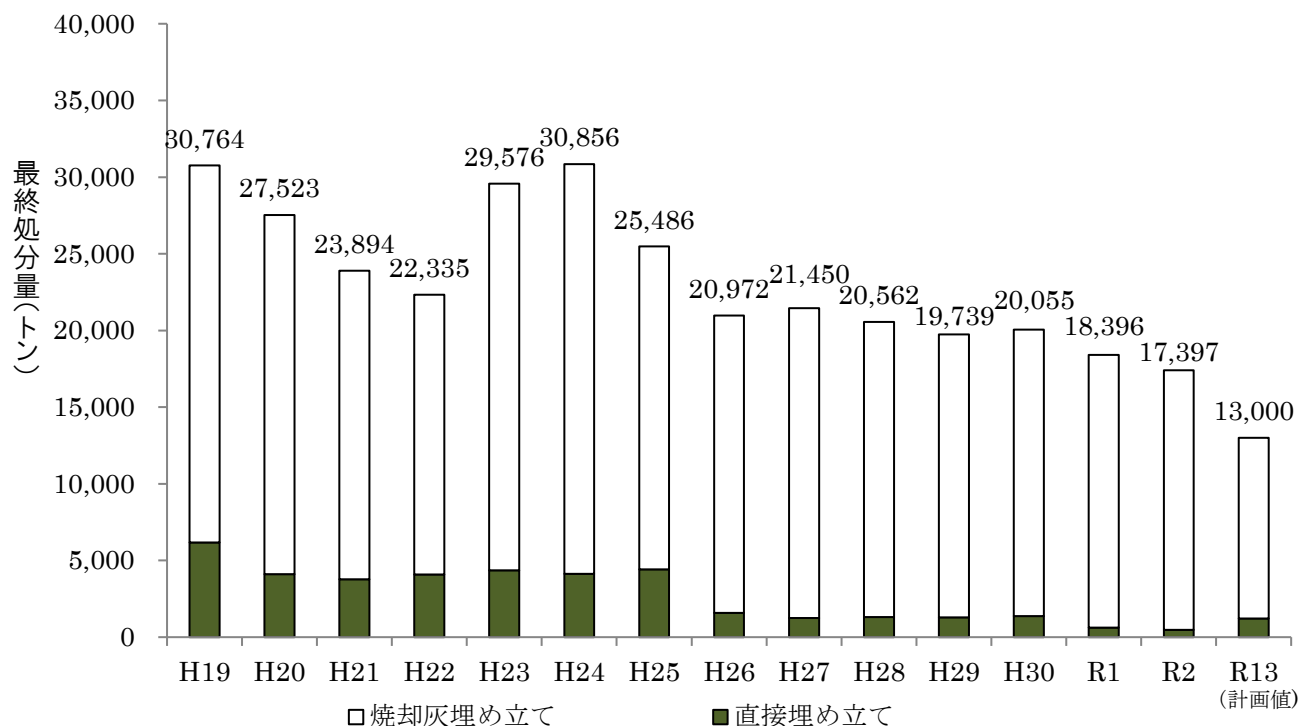


図4 最終処分量の推移

【取組結果】

① 焼却灰発生率

計画：10.8%→実績（北清掃工場）：7.4%

② 焼却灰埋立量

計画：21,046トン→実績：16,926トン（▲4,120トン）

【主な要因】

- ・ 焼却灰発生率が推計値よりも低い
- ・ 新浜リサイクルセンターから発生する不燃残渣の再資源化量の増加

オ 温室効果ガス排出量

令和2年度の温室効果ガス排出量は焼却ごみの組成変化等により 82,525t となり、前年度と比べて 16,435t (16.6%) 減少しましたが、計画値の 81,517t に達しませんでした。

表2：温室効果ガス排出量の内訳

(単位：トン)

	清掃工場稼働 に伴う発生量 (A)	廃棄物の焼却 に伴う発生量 (B)	売電、熱供給に 伴う間接削減量 (C)	合計 (A+B-C)
計画	※	※	※	81,517
実績	1,006	101,647	20,128	82,525
実績－計画				1,008

※計画値は、全体の排出量のみ計上しています。

【主な要因】

- ・新港清掃工場のスーパーごみ発電廃止及び民間企業への蒸気供給停止の影響により、間接削減量が減少
- ※ただし、計画策定時の想定と比べ、焼却ごみ中のプラスチック類の組成割合が減少していることから、計画値に近い値となっている
(H27：28.5% → R2：27.7% [▲0.8ポイント])